



ズバッと!

Q&A 「もの忘れ外来」は どんなところ?

日常生活で気になったことや困ったことについて、専門家にアドバイスをもらいます。一回目のテーマは「もの忘れ外来」です。認知症の兆候か、それとも別の病気を診断するのが「もの忘れ外来」です。受診のタイミングや診察方法などについて、甲府脳神経外科病院理事長の篠原豊明医師に聞きました。



甲府脳神経外科病院
理事長
篠原 豊明さん

しのはら・とよあきさん
日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医。日本脳神経外科学会、日本臨床脳神経外科協会、日本早期認知症学会所属。



鍵や財布の置き場所を忘れてしまったり、買い物に行っ
て同じものを何度も買ってきてしまったりと、日常生活で
「もの忘れ」が増えたと悩んでいる友人がいます。



朝食食べた物が思い出せない、眼鏡や鍵などの探し物が増える、電子レンジの使い方が分からない、自動車の運転免許証の更新で認知機能検査がうまくいかなかった。日常生活でこのようなエピソードがあるようでしたら、「もの忘れ外来」の受診をお勧めします。もの忘れ外来が近くにない場合は、脳神経外科や脳神経内科を受診しましょう。

もの忘れ外来ではどんな診察をしますか?



症状はもの忘れでも、原因はいろいろ考えられますので、まずは原因を特定することから始まります。貧血や糖尿病、甲状腺の働きが落ちているなど別の疾患や、頭部の外傷が原因で認知症と似たような症状が出ることもあるからです。当病院のもの忘れ外来ではまず、物忘れテストとMRIの画像診断、血液検査を行います。早ければその日のうちに結果が分かります。

認知症の疑いがある場合、どんな検査をしますか?



認知症には、アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型などさまざまなタイプがあり、SPECTという脳の血流を調べる検査をすることでどのようなタイプかを調べます。認知症のうち約6割がアルツハイマー型です。アルツハイマー型が疑われる場合、アミロイドPETや脳脊髄液検査を行い、確定診断をします。

診断が確定して治療が決まるということですね。



アルツハイマー病と診断された場合、症状の進行を遅らせることを目的とした点滴注射を行います。最近話題になっている新薬「レカネマブ（商品名レケンビ）」は、特定の条件に当てはまれば点滴注射が可能です。日常生活の中で、デイサービスを利用したり、趣味の活動をしたりして「頭のリハビリ」も心掛けましょう。できるだけ独りぼっちにせず、いろいろな人と関わるのが大切です。